Kamita, T. - *Argiope amoena* L. Koch Found in Corea.

コガネグモは朝鮮にも居る

上　田　常　一

京城府西四軒町191

（昭和十一年八月三十日受領）

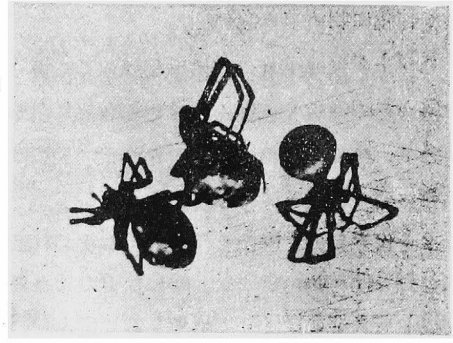
昭和7年（1932）の夏筆者は博物採集のため，濟州島漢羅山に登つたが，その7月27日島の南側で裾を拓いた粟畠の間を通ずる道を殆んど登りつめた頃，その道の兩側に於いて，圖らずも澤山のコガネグモを見つけて喜んだ。濟州島にコガネグモが居るといふことは，森爲三氏の「濟州島陸産動物概論」（昭和3年10月發行文教の朝鮮濟州島夏季大學號）にも出てゐなかつたので，格別な收穫だと思つた。それで筆者はこの紀行文を翌8年3月發行の京城師範校友會誌（朝光）に載せた際，このクモに就いては特に次のように書いてをいた。「道の兩側にはサンバサウグモが實に澤山ゐて大きな巢を張つてござる。隨分大きなのがゐる。中には脫皮して間もないものやら，餌をつかまへて今や甘いエキスを一氣に吸うてゐるもの等色々な場面を見せつけられる。可成大きなのを選んで管瓶に收め乍ら進む。」

コガネグモは筆者の鄉里島根縣濱田の直ぐ隣村あたりにも澤山ゐて，小學校に通ふた頃はよく友達とこのクモ取りに出かけ，木の小枝に網ごとつけて持ちかへり，庭の木や垣に放してをくと，翌朝は立派に網を張つてをるので，トンボ等を取つて來てはその翅先をちぎつて飛べないようにしてから網に投げてやつたものである。かうして餌をやるにつれてクモは目立つて太り，遂には卵を產むので仲々面白かつた。時には箸のようなものを作り，その中央を指で握り兩端からクモを這はせて喧嘩させて遊んだ。母なども野良仕事のかへりには，

大變大きなのを枝に取つて來て呉れたこともある。それで，濟州島でコガネグモを見付けた際は，圖鑑をひろげるまでもなく，直ちにそれだといふことがわかつた。

岡本寛氏が「濟州島の陸産動物誌」と題して，昭和9年12月發行の全南教育に載せられたものを見ても，コガネグモに就いては何等記されてゐらぬ。北陸館發行の日本動物圖鑑（p. 966. 第1863圖）を見ると，コガネグモは本州・四國・九州に特産すと書いてあるし，岸田先生の「蜘蛛の生活」（昭和8年7月發行）を見ると，p. 66 にコガネグモは本州・四國・九州に廣く分布する種類であるとあつて，朝鮮は擧げられてない。今度本誌が發刊されて，その第1號を見ると，岸田先生のコガネグモに就いての論文があり．それによると（p. 23）コガネグモの分布は矢張り本州・四國・九州で，朝鮮にはゐないことになつてをる。そこで筆者は朝鮮を初めて新産地として擧げねばならぬと思つてこゝに報ずる次第である。

尙筆者は昨年の夏全羅南道の巨文島でこのクモの卵を見つけてをり，神邊利重氏は昭和8年1月31日發行の朝鮮博物學會雜誌に「木浦産蜘蛛採集目錄」を載せてをるが，その中に木浦棉作支場附近でコガネグモを採集されたことが記されてあるから，朝鮮の南端即ち植物分布上暖帶に屬する地域には廣くゐるのではないかと思ふ。



濟州島のコガネグモ（×$\frac{3}{5}$）
フオルマリン漬を本年8月撮影